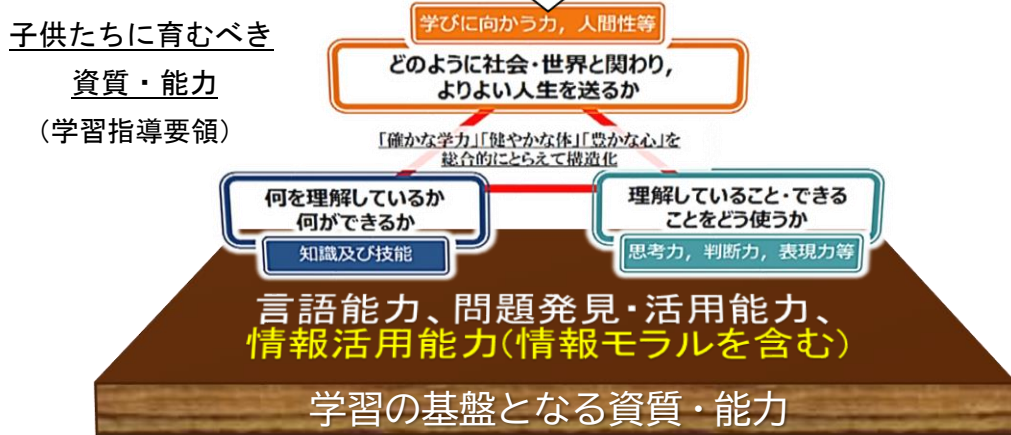


ICTを活用した教育について ～教育の情報化におけるGIGAスクール構想～

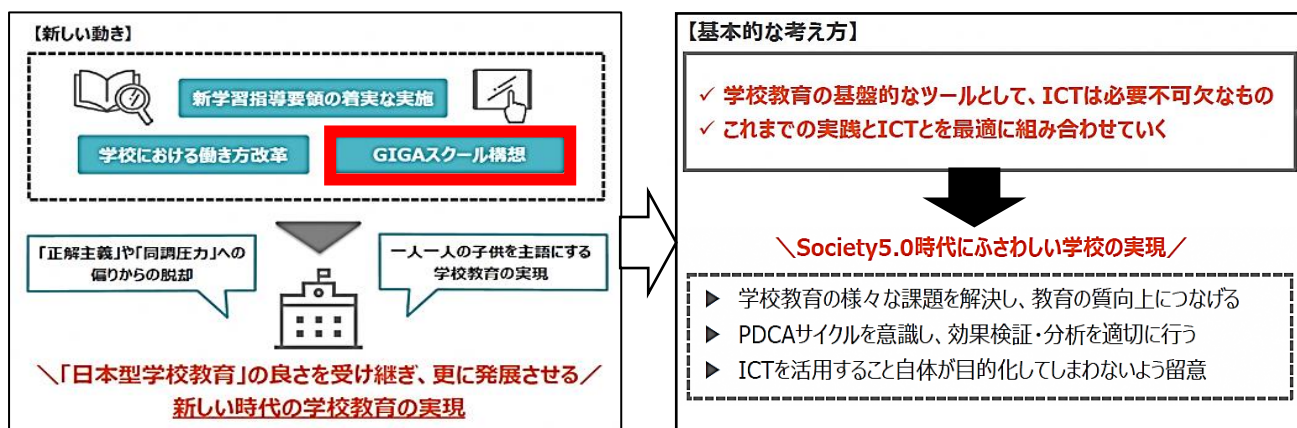
1 GIGAスクール構想推進の背景

(1) 急激に変化する時代の中で児童生徒に育むべき資質・能力の育成

- ・ 社会の在り方が劇的に変わる「Society 5.0時代」の到来
- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大など「予測困難な時代」
- ・ 社会全体の「デジタル化・オンライン化・DX加速の必要性」



(2) 「日本型学校教育（子供たちの知・徳・体を一体で育む学校教育）」における新たな動きと「令和の日本型学校教育」の構築に向けたICTの活用に関する基本的な考え方



2 教育の情報化とGIGAスクール構想

(1) 教育の情報化とは

「児童生徒の情報活用能力の育成」「教科指導におけるICT活用」「校務の情報化」

(2) GIGAスクール構想とは

- 1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークの一体的な整備により、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現する。
- これまでの我が国の教育実践と最先端のICTとのベストミックスにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す。

3 第二次鹿児島市教育振興基本計画（素案）における「教育の情報化の推進」の施策の方向性

- ① 蓄積された教育実践とICTを効果的に活用した新しい教育技術のベストミックス
- ② 発達段階に応じて、情報技術を手段として活用できる情報活用能力の育成
- ③ 教職員のICT活用指導力の向上と活用の充実
- ④ 整備したICT機器等の計画的な更新や適切な維持管理と情報モラル教育の促進

4 本市におけるICTを活用した教育に関する取組

(1) ICT環境整備

GIGAスクール構想に基づき、令和2年度から各学校のネットワーク環境の更新と強化、1人1台端末に向けた整備を実施。現在、市内の小・中学校児童生徒数の90%に端末が整備済み。

残り10%の端末も今年度内に整備完了予定。

児童生徒用タブレット整備台数

	整備機種 (OS)	整備台数 (台)	小・中学校合計台数 (台)
小学校	iPad (iOS)	30,013	44,549
中学校	Dynabook K50 (Windows)	14,536	

(2) 1人1台端末を生かした活用例

- 教師が児童生徒の端末に、瞬時に学習資料等を配信したり、アンケートやオンラインテストの回答を回収したりする。
- 児童生徒が、それぞれ端末に書き込んだ考えを一覧表示したり、全員に送信したりすることで、短時間で互いの考えを比較・共有する。
- ワークシートや作品等を、学習成果物や学習ログとして記録しておき、これまでの学習を振り返ったり、それを元にして新たな考えをまとめたりする。
- 緊急時の学びの保障として、家庭と学校をつないだオンラインを活用した学習活動を行う。



(3) プログラミング教育の充実

全ての小学校において教育課程にプログラミング教育を位置づけるとともに、鹿児島大学との連携事業として、大学教員や学生による学校への出前授業を実施している。(今年度16校を予定)

(4) 学校支援と教職員研修の充実

学校における端末等のICT活用の支援のため、ICT支援員を会計年度任用職員として2人雇用し、学校への派遣やトラブル等に対するヘルプデスク業務を行っている。

また、オンラインも活用しながら、教職員を対象とした研修も計画的に実施している。

① ICT支援員年間派遣回数

年度	派遣校数	派遣回数	対象教職員数
令和2年度	67校	152回	1,333人
令和3年度	78校	135回	1,638人

② ICT活用に関する教職員研修

	回数	参加人数
令和2年度	17回	405人
令和3年度	21回	1,450人

※①②とも令和3年度は10月末現在数

(5) 情報モラル教育の充実

全ての学校において、情報モラルに関する指導計画を作成し、道徳や技術・家庭科など教科横断的に、発達の段階に応じた指導を行っている。

また、今年度、経済産業省の事業を活用し、小学校5、6年生、中学校全生徒を対象としたオンライン型情報モラル教材「DQ World」を導入し、情報モラル教育の充実を図っている。

